

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE



小樽商科大学広報誌

vol.181

2017 SPRING

小樽商科大学

小樽商科大学

学園たより



● CONTENTS ●

学長挨拶…………… 1
 小樽商科大学同窓会緑丘会理事長挨拶…………… 2
 新任教員のご紹介…………… 3
 グローカルマネジメント副専攻プログラムについて 4

学生何でも相談室を知っていますか?…………… 5
 全国大会に出場しました!…………… 6
 危険な飲酒を防ぐために…………… 6
 商大くんがいく!ブログ学生スタッフ
 就活インタビューフェス報告…………… 7

(題字は和田健夫 学長)

ご入学 おめでとうございます

新入生諸君、ご入学おめでとうございます。教職員一同心よりお祝い申し上げます。

大学は、社会で仕事をもち働く前の最後の修業の場です。これから、新しい知識や思想を学び、様々な体験をして、多くの人と出会うことが、みなさんに、社会で生きるための拠りどころを与えてくれるはずです。

社会は、大きく変わろうとしています。世界中の人、モノ、情報が容易に行き交い影響し合うグローバリズムの時代です。企業の活動にはもはや国境はありません。グローバリズムは人々に多くの利益をもたらしましたが、他方で、それに取り残される人々があり、格差や民族間の対立、憎しみを生み出しました。今、それを押し戻そうとする動きが起こっています。

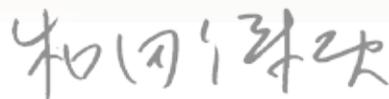
IT技術の進展により、ありとあらゆる情報がデータ化され、それがネットで繋がれて（ビッグデータ）、人々の嗜好、行動、経済動向などの判断・予測に利用される、その分析を人間ではなく人工知能（AI）が行う時代が到来しようとしています。これは、社会のありかたを根本的に変えるかもしれません。

小樽商科大学は、「幅広いスキルを持ちながら同時に一カ所を深く掘り下げる『T型人材』の育成」をモットーにしてきました。それらの知識を使い、他者と協働して課題に向かう意欲・力を育てること（実学教育）にも力を入れてきました（「2017小樽商科大学大学案内」13頁）。これからの時代を生き抜くために必要な能力です。

さらに昨年度から、グローバルな視野のもとで、ローカル＝地域の視点から行動できる人材（「グローバル人材」）の育成という目標を掲げ、本学OBからの寄付金により返還の義務がない給付型の奨学金制度を設立しました。初年時学生を対象に海外留学を支援しています。多くの方々に利用してもらいたいと思います。

小樽商科大学は、みなさんが成長するために必要な最大限の支援をします。学生生活を有意義に過ごしてください。

平成29年4月4日
小樽商科大学長
和田 健夫



小樽商科大学新入学生に 対するメッセージ

新入生の皆さん、小樽商科大学への入学おめでとうございます。同窓生を代表して心よりお祝い申し上げます。私も半世紀前に、皆さんと同じように希望に胸を膨らませて入学式に臨んだことを昨日のように思い出されます。

私の学生生活を振り返りますと、学生寮生活、応援団、バスケットボール部、ゼミ活動などを通して多くの事を学び、現在も続く生涯の友を得ることができました。小樽商科大学は、小樽の街と一体化した国立大学では唯一の社会科学系単科大学で、これは昔も今も変わりません。小規模ではありますが、創立以来 100 余年にわたりグローバルな人材を北海道はもとより全国に送り出してきました。国際的な場で活躍している OB・OG も少なくありません。

大学で何を学び、何を得て巣立っていくのか、皆さんはどのようなプランを持っていますか？

実社会の経験をした先輩からの助言です。

第一に、学問を修めることはもちろんのこととして、皆さんには国際的視点を持ち、日本国内はもとより国際的な動向にも強い関心を持って欲しいということです。最近では道内での就職を希望する方が増えているようですが、北海道の産業や経済の進展には、今まで以上に国際的な繋がりが重要です。道内で職を求めるときであってもグローバルな視点を欠くことはできません。

第二は、緑丘での 4 年間に、勉学に加えて、これはという経験を積んで欲しい。スポーツでも文化的なことでも良いのです。夢中になって打ち込んだ経験が社会に出てから大きな自信になるはずですよ。

小樽商科大学には他の大学にない良さが数多くあります。一つだけ挙げるなら、小規模な単科大学が育む「学生、教職員、卒業生の強い一体感」です。この緑丘で培われた強い絆が社会に出た後も続き、財産となるはずですよ。

皆さんは今、真っ白なキャンパスの前に立っています。有意義な 4 年間を過ごし、自分自身の絵を思いっきり描いてください。



サンシャイン60ビル



公益社団法人 緑丘会
理事長 島崎 憲明

小樽商科大学同窓会 緑丘会について

小樽商科大学の同窓会である「公益社団法人緑丘会」は、1939年（昭和14年）に法人化され、本部を東京・池袋サンシャイン60ビル・57階に置き、全国に23の支部、会員5,000名余を擁しています。公益財団法人小樽商科大学後援会ともども母校の基盤向上のために、年間2千万円以上の規模で助成事業を行っております。主な助成事業は次の通りです。

①学生の社会人基礎力養成、就業力育成に関する普及、啓発を目的とした「キャリア形成支援企業セミナー」の主催、②正課教育である「エバーグリーン講座」の運営支援、③国際的な視野に立つ人材育成を目的とした奨学金給付及びTOEICの受験費用補助、④就職活動資金の貸与等、⑤留学生の支援。

新任教員のご紹介

①最終学歴 ②研究分野 ③担当授業科目
④趣味 ⑤商大に着任しての感想 ⑥商大生に期待すること



平成 28 年度から小樽商科大学に着任された、5 名の教員の方々を紹介するよ！
みんな、先生方の名前と顔を覚えてね！



商学部企業法学科 ^{すが めま まや こ} 菅沼 真也子 准教授

①中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士前期課程修了・修士（法学） / 中央大学大学院法学研究科刑事法専攻博士後期課程満期退学 ②刑法、ドイツ刑法 ③刑法Ⅰ・Ⅱ、基礎法特講Ⅰ（刑訴法）
④写真撮影、旅行、料理、食べ飲み歩き ⑤初めて住む北の大地で驚きの連続ですが、小樽での暮らしを満喫して日々過ごしています。学生会館2階からの眺めが素敵。 ⑥短い学生生活で後悔のないよう、学問に真剣に取り組みつつ、遊びも楽しんでください。



商学部一般教育等 ^{ごとう よし あき} 後藤 良彰 准教授

①北海道大学大学院理学院数学専攻博士後期課程修了 ②数学、特に特殊関数論 ③数学Ⅰ・数学Ⅱ・基礎ゼミナール・現代の数学 ④国内旅行 ⑤実は小樽出身なので、昔から商大には馴染みがありました。故郷で研究・教育に携われることを大変嬉しく思っています。馴染みがあったとはいえ、学内の雰囲気などは着任して初めて実感したので、新鮮な思いでこの数ヶ月を過ごしました。 ⑥さまざまなことに対して、じっくりと考え、自分なりの意見をきちんと述べられる人になってほしいと思います。ゼミなどを通じて、そういった力を身につけていってください。



大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻 ^{にしむら とも ゆき} 西村 友幸 教授

①北海道大学大学院経済学研究科経営学専攻博士課程修了・博士（経営学） ②組織論 ③組織行動マネジメント、戦略的人的資源管理 ④珠算。商大生に全日本珠算選手権大会フラッシュ暗算優勝者がいるので、学食で会ったら珠算の話をしませう。業界誌に時折り論文を投稿しています。最新作のタイトルは「珠算版ストラックアウト」。 ⑤どうしても16年間在籍した前任校の釧路公立大学と比較してしまいます。相違点多々あって当初は驚きの連続でした。商大の感想を一言で述べると「伝統校」です。 ⑥自由を謳歌してほしいです。



大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻 ^{うちだ じゅんいち} 内田 純一 准教授

①北海道大学大学院経済学研究科修士課程修了・修士（経営学） / 博士（国際広報メディア）（北海道大学） ②観光学、広報論、地域産業、サービス・イノベーション ③サービスマネジメント（専門職大学院）、経営戦略論（学部） ④映画鑑賞（香港・台湾が中心）と映画祭めぐり、読書（北海道ゆかりの文学） ⑤海が見える研究室からの眺めが新鮮。 ⑥商大生らしく、文学（や芸術）に親しみながら商学全般を究めましょう！



グローバル教育部門 ^{なかつ がわ まさのぶ} 中津川 雅宣 助教

①小樽商科大学大学院現代商学専攻早期修了・修士（商学）・南イリノイ大学大学院修士課程英語教授法専攻修了 ②応用言語学・英語科教育法 ③英語・アメリカ事情、アジアオセアニア事情 等 ④バレーボール、映画鑑賞 ⑤母校で教鞭を取れることに感動しております。でも、私が学生の頃より、内向き学生が多く、せっかく成長できるたくさんの機会がある小樽商大なのにもったいない気持ちです。もっと大学を有効活用してほしいと思います。 ⑥グローバル化が進み、みなさんが現役で働いている20年後には、現在ある職業のうち半分が無くなると言われていています。そんな社会になっても世界や地域で活躍できるグローバルな人材になって社会に羽ばたいてほしいと思います。

グローバルマネジメント副専攻 プログラムについて

グローバルマネジメント副専攻プログラムとは、地域に根ざしたグローバルリーダーを育成するプログラムです。「副専攻プログラム」は、通常4学科の主専攻に加えて学ぶもので、2年生から所属できます。科目群は、大きく分けて3つあります。①地域を理解する力・実践力を身につけるための「地域キャリア教育科目群」、②世界に通用する経営の専門知識を身につけるための「グローバル教育プログラム科目群」、③異文化に対する理解や、言語能力を身につけるための「言語文化教育科目群」です。このプログラムの一環として、留学や海外研修に行くこともできます。また、そのための財政支援も充実しています。

今回は、このプログラムに所属する2名に、お話を伺いました！



田野倉 光一 (3年・早期卒業^(注)) ・企業法学科 ・大手 IT 企業内定

※学年は、平成29年3月時点

(注) 早期卒業とは、本学に3年以上在学した者が、卒業要件として定める単位を優秀な成績で修得したと認められる場合に、4年未満の在学中の卒業が認められる制度のことを言います。

● グローカルマネジメント副専攻プログラムを受けようと思った理由

「新たなことに挑戦したい」という気持ちと、「互いに切磋琢磨できる仲間と出会う」ことへの期待感を持って受けようと思いました。

● プログラムで学習した内容とその感想

国際ビジネスやマーケティング、国際経済などの専門科目を多くの留学生とともに学びました。また、2年次には「マレーシア」、3年次には「オーストリア」に短期留学する機会にも恵まれました。これら全ての経験を通じ、多くの知識を吸収することができ、大きく成長することができたと思います。

● 社会人としての抱負 (これからの目標など)

現代は、「VUCA (ブーカ) の時代」と表現されるように、複雑で、変化の激しい時代であると言われています。このような時代を生きる上で、私は「知識」が一番重要なものであり、何より価値ある資産であると考えています。大学で身につけた知識を下地として、今後も「学ぶ」ことに貪欲でありたいと思います。そして、これからの時代の先を切り開いていけるような人材でありたいと思います。

● 新入生・在学生へのメッセージ

まずは、どんなことにも果敢に挑戦してみてください。その過程で、様々なことを学んでください。そして、自分自身の持つ可能性に気付いてください。その手段の一つとして、「グローバルマネジメント副専攻プログラム」は本当におすすめです。なぜなら、皆さんの挑戦を「商大が全力でサポートしてくれる」からです。皆さんの大学生活が「実りある4年間」になりますように、応援しています！



碓井 聖菜 (2年) ・商学科 ・オグレスープ大学 (米) 留学

※学年は、平成29年3月時点



● グローカルマネジメント副専攻プログラムを受けようと思った理由

もともと留学や海外について興味があり、グローバルという名前から自分にぴったりだと思ったことがきっかけです。単位を多く取らなければいけないため、忙しくなるのではないかと不安はありましたが、他の授業に物足りなさを感じていたことや、留学生と関わること、少人数でしっかり学べることに魅力を感じ、挑戦してみようと思いました。

● 留学体験の内容

アメリカのオグレスープ大学で、商大の専攻に関わるビジネス系の授業を主に学びました。留学したことで得た、日本を他の国の視点から見るといった経験を、今後のグローバル副専攻での授業で活かすことができればと思います。

● 今後の大学生活への抱負

何事にも新しい視点で、興味を持って挑戦することが大切であると感じたので、興味を持ったことのない分野の授業も積極的に受けたいです。また、海外で働きたいという目標に向かって努力と試行錯誤を重ねていきたいです。

● 新入生・在学生へのメッセージ

大学生は、人生最大の自由な時間であると思います。自由である分、目標や目的がないただ日が流れていだけですが、その時間をうまく使えたら、素晴らしく充実したものになるはずですよ。私もどうすべきか迷う日々ですが、自分の最大限を尽くせるように一緒に頑張りたいです！

学生何でも相談室を知っていますか？



大学生活でトラブルや悩みが発生したとき、どうしていますか。もちろん自分で解決するという態度は大事です。しかし、状況によっては、相談をすることによって視野が広がり、より適切な問題解決につながる場合があります。

今回は学生支援のために設置されている「学生何でも相談室」について紹介します。

Q 何をするといい？

大学生生活を送る上で皆さんの困っている事や心の悩みについて相談に応じています。

悩みをどこに相談にすべきか分からない時などにも、まず相談に来てみてください。



Q 障がいの相談は？

障がいのある学生の皆さんの生活相談や心理相談は学生何でも相談室、修学支援については特別修学支援室が担当します。

参考： <http://www.otaru-uc.ac.jp/~sugiyama/>

Q 具体的にどんな相談ができるの？

たとえば、次のような相談が寄せられています。

- ・大学生活になじめない
- ・自分は発達障がいなのではないかと思う
- ・自分のあり方や性格について考えたい
- ・サークル・ゼミなどでの人間関係に悩んでいる
- ・勉強への意欲や目的意識がもてない
- ・卒業後にやりたいことが見つからない、等々

また、悩みだけではなく、大学生活をより充実させるための相談も可能です。



Q 相談員はどんな人？



本学の心理学教員と経験豊富な臨床心理士が相談を担当します。

▶平成29年度相談担当一覧

【前期】 月曜日 (14:30 ~ 17:30) 杉山 成 教授
水曜日 (13:30 ~ 17:30) 今井智香子 氏
金曜日 (13:00 ~ 17:00) 今井智香子 氏

【後期】 月曜日 (14:30 ~ 17:30) 杉山 成 教授
水曜日 (13:30 ~ 17:30) 秋谷 博夫 氏
金曜日 (13:00 ~ 17:00) 秋谷 博夫 氏



Q 利用方法は？

直接来ていただくことも可能ですが、予約者優先となりますので、できるだけ事前に電話、メールでの予約をお勧めいたします。

なお、相談については守秘義務がありますので、相談者の承諾なく、個人情報外部に報告されるようなことはありません。



学生何でも相談室 / 特別修学支援室 (3号館4階)

電話：0134-27-5241

メール：soudan@office.otaru-uc.ac.jp



全国大会に出場しました！

平成 28 年度も、多くの部・サークル団体が、全国大会で活躍しました！

水泳部



●第 63 回全国国公立大学選手権水泳競技大会

結果：○徳永和真（4 年） 50m 自由形 24"66 28 位
 100m 自由形 55"26 38 位
 ○菊地琴絵（3 年） 50m 自由形 28"63 22 位
 100m 自由形 1'06"16 41 位

剣道部



●第 50 回全日本女子学生剣道選手権大会

結果：○澤田愛里（3 年） 一回戦敗退

ヨット部



●2016 年度全日本学生ヨット個人選手権大会

結果：39 位 / 47 艇 出場選手：原 駿介（4 年）、
 羽野良輔、民谷博子（2 年）

●第 81 回全日本学生ヨット選手権大会

結果：22 位 / 23 校 出場選手：吉田壮一郎、原 駿介、水野友貴、
 澤村彩芽（4 年）、北清友朗（3 年）、
 羽野良輔、民谷博子（2 年）

アカペラ サークル AIRS



●ソラマチアカペラストリート

応募総数 1358 グループ中 456 グループ出場

●金沢アカペラ・タウン 2016

応募総数 226 グループ中 182 グループ出場

保健管理センターからのお知らせ

危険な飲酒を 防ぐために

平成 24 年、本学で飲酒事故があり、一人の若く貴重な命が失われてしまいました。私たちはそのことを深く心に刻まなくてはなりません。未成年飲酒や飲酒運転、飲酒の強要は、明らかに社会のルールに反する行為です。こうした行為に対しては毅然とした態度で＜NO＞を表明し、自身と周囲の人たちの未来を守ってください。

未成年者の飲酒は厳禁

成長期にある未成年者の飲酒は、脳の機能低下や性腺機能障害などを引き起こしたり、短期間でアルコール依存症が発症すると言われてしています。また、交通事故、転倒・転落などの事故や暴力行為などの犯罪に巻き込まれる危険性も高くなります。未成年者自身はどんな場面であっても飲酒を断り、また成人は未成年者に決して飲酒をさせてはいけません。



STOP! アルコールハラスメント

場の空気や上下関係から飲酒を強要する行為はアルコールハラスメントであり、命を奪うこともあります。以下のいずれもがアルコールハラスメントですので、決して行ってはいけませんし、このようなことをしている人を止めなければなりません。

飲酒の強要

上下関係・部の伝統・によるはやしたて・罰ゲームなどといった形で心理的な圧力をかけ、飲まざるをえない状況に追い込むこと。

イッキ飲ませ

場を盛り上げるために、イッキ飲みや早飲み競争などをさせること。「イッキ飲み」とは一息で飲み干すこと、早飲みも「イッキ」と同じ。

意図的な酔いつぶし

酔いつぶすことを意図して、飲み会を行なうことで、傷害行為にもあたる。ひどいケースでは吐くための袋やバケツ、「つぶれ部屋」を用意していることもある。

飲めない人への配慮を欠くこと

本人の体質や意向を無視して飲酒を勧める、宴会に酒類以外の飲み物を用意しない、飲めないことをからかったり侮辱する、など。

酔ったうえでの迷惑行為

酔って絡むこと、悪ふざけ、暴言・暴力、セクハラその他のひんしゅく行為。

当センターではアルコールに関する DVD の放映と、「アルコールパッチテスト」を 6 月中旬頃に開催する予定です。（詳細は後日掲示等でお知らせいたします）みなさんのご参加をお待ちしています。



商大くんがいく！

ブログ学生スタッフ 就活インタビュー フェス報告



小樽商科大学公式ブログ「商大くんがいく！」の学生スタッフです！1月21日（土）に、小樽商科大学のOB・OGや卒業する4年生の方々に、仕事や就活についてインタビューをするイベント「就活インタビューフェス」を開催しました。その中のインタビューをいくつか紹介したいと思います！

Q どんな大学生生活を過ごしましたか？

A 部活動には真剣に打ち込み、その一方でサークル活動では行事の企画をしたりして思いっきり楽しみました。勉強はほどほどでしたが、4年間でしっかり単位を取り終えることができました。おそらく全国のどの大学生よりも動き回っていたのではないかと、思う程で、大学でしかできない多くの経験ができたと思います。（製造業内定4年生 Nさん）

Q 社会に出てみて、学生時代にやって良かったと思うことはありますか？

A 「旅」をオススメします。旅行や留学はもちろん、色んな場に参加したり、何かに挑戦したりする経験は、就活や仕事にきっと生かされると思います。インターンシップもとても良い経験になりました。（就職支援業内定4年生 Sさん）



Q 自分のやりたい仕事はどのようにして見つけましたか？

A 大学時代に様々な人と出会って、「こんな人になりたい！」と思う人ができると、大きなヒントになると思います。また、実際に企業の人に会って、その企業の魅力を知っていくと、自然とやりたい仕事が見つかると思います。（市役所職員 Mさん）

Q 在学生のみなさんに何かメッセージをお願いします！

A 小樽商科大学は、自分のやりたいと思ったことがたくさんできる大学です！様々なことに積極的に挑戦し、やりたいことが見つからない時には、イベントや誘ってくれる場に積極的に参加をして、ぜひ充実した大学生生活を送ってください！（金融業 Hさん）



編集後記

今回記事の中で、様々な方から学生に対するメッセージを頂戴しました。その中で共通するメッセージが「主体的に行動することの重要性」です。一人一人与えられる時間は平等だからこそ、積極的に行動し大学生活4年間という短い時間を有意義に過ごしてほしいと思います。

(学生支援課)

今後もブログ学生スタッフでは、様々な方にインタビューや取材をして、学生のみなさまに役立つ情報をお届けしていきます！現在24名のメンバーで活動していますが、学年を問わず、ブログ学生スタッフを募集していますので、興味のある方は以下のメールアドレスにご連絡ください！

ouctaka2010@yahoo.co.jp

小樽商大の新鮮な情報を毎日発信！

ブログ「商大くんがいく！」



商大若手職員と学生がタグを組んで作っている「商大くんがいく」ブログでは、商大生の活躍はもちろん、学内のさまざまな旬のトピックスがご覧になれます。

<http://www.otaru-uc.ac.jp/shoudai-kun/>